

協会活動報告

栃木県青少年浙江省訪問団説明会



9月19日から予定している訪中に向け、とちぎ国際交流センターにて全3回の説明会が行われました。多くの参加者にとって初めての中国体験となるため、成田金城事務局長により入念な説明が行われました。

第15回 峰が丘夏祭りへ参加(2024/7/27)



今年もまなびの森保育園主催の「峰が丘夏祭り」へ参加しました。宇都宮大学の中国人留学生も多数参加し、かき氷や浴衣を存分に楽しみました。中国では体験できない日本の夏祭りは、彼らの夏の思い出を彩りました。

杭州市第13中学校来県の歓迎(2024/8/7)



杭州市第13中学校による来県の歓迎のため、上三川中学校訪問の際の通訳担当と夕食会の開催を行いました。日中双方による演目の披露や贈り物の交換を通し、お互いの友好的感情を育みました。

栃木県青少年浙江省訪問団(2024/9/19~9/25)



9/19~25の7日間、地域の社会人や学生を含む総勢35名が浙江省を訪問しました。杭州市や金華市など浙江省のあちこちを巡る旅は、栃木県がどのような都市と友好関係にあるのかを学ぶ絶好の機会でした。



こちらは栃木日中友好協会新設サイトのQRコードです。「知己」に載せきれない詳細な情報はこちらからご覧ください。お問合せや掲載依頼も随時受け付けております！

栃木県&浙江省友好交流締結30周年

栃木県と浙江省が友好都市を締結してから今年で30周年を迎えます。2月には栃木県から7名の学生が訪中団に参加し、浙江省における各対外友好協会や大学、図書館などの施設に訪問しました。浙江省側からは参加学生それぞれの名前を刻んだ盾や陶磁器などの贈り物をいただき、非常に心温まる歓迎をしていただきました。この訪中を機に協会の活動のさらなる展開を図り、特に日中相互の青少年交流を盛り上げていく所存です。都道府県の壁を越えた活動も予定しておりますので、若いエネルギーの爆発に今後もご期待ください！



青年部の歩み



9月の訪中に向け宇都宮市内のレンタルスペースで中国語勉強会を行いました。また8月末には中国大使館や都市部の青年委員会の方々との今後の活動について意見交換を行いました。今後も我々は地域内外の繋がりを大切に活動します！

今後の予定

- 10月 中国語スピーチコンテスト10月19日(土) *県文化センター予約済み
- 11月 宇都宮大学大学祭(青年部と中国留学生学友会との連携)
- 12月 クリスマス&忘年会(提案)
- 2025年1月(令和7年)
 - 1月 1月12日(日)全日本中国スピーチコンテスト(東京)詳細別紙(予定)
 - 新年会
 - 2月 中国春節を迎える(餃子会)*2月9日(日)
 - 3月 令和6年度(決算)
 - 4月 *4月中旬(理事会後・総会)
 - 2025年度(令和7年)事業計画案の提出

栃木県日中友好協会事務局 連絡先変更のお知らせ

FAX : 0285-52-1588

E-mail : tochiginichu.jimukyoku@gmail.com

※現在、協会事務局にはスタッフが常駐しておりません。何かございましたら、上記E-mailまでご連絡いただきますようお願いいたします。当協会新設サイトの「お問い合わせ」ページからのご連絡も承ります。

栃木県 日中友好協会 会報誌 知己

2024/9/30発行

第1号

発行: 栃木県日中友好協会青年部
河内郡上三川町大字
ゆうきが丘12-6
0285-52-1588

新会長あいさつ 栃木県日中友好協会会長 白石 雄治



「神より地球の未来を託された生物として謙虚に生きる」

120年前、栃木県奥日光の山中で絶滅したニホンオオカミの最後の遠吠えを聞いた故老が居た。今となってはニホンオオカミの情報は僅かに残る剥製からのみである。天敵の居なくなったニホンジカはその後飛躍的に増え、生態系のバランスを崩し甚大な被害を我々に与えている。

もとは一つの細胞から出発したといわれる生物が現代これだけ多くの姿・生活様式を見せ、尚関係あっていることを生物多様性と言う。38億年前の生命の歴史の中で生物多様性の頂点に立つヒト(ホモ・サピエンス)は地球の未来への全責任があると考えるのが自然である。ヒトが居なくなっても、他の生物は余り不自由なく普通に生活が出来るが、ヒトは昆虫が絶滅すると植物の受粉が出来ず直ぐに食糧難の危機に陥る。一属一種のヒトは今日空前絶後の繁栄をしているが他の生物の命の上にその生活が成り立っていることを忘れてはならない。アフリカに発祥した人類は5万年ほど前にユーラシア大陸に現れ東に向かい、その延長線上にアセアンの国々・オーストラリア・中国・日本等がある。家族を中心としたヒトの群れは脳の進化と共に共同体へと変貌してやがて国家へと変遷をとげた。国を意識したのも僅か数千年前であり地球の歴史・人類の歴史から鑑みてついにこの間のことである。

翻って私たちのアイデンティティーとは何であろうか? 栃木県人? 日本人? 否、地球人? 我々の未来は地球の安全な発展があってこそ保証されるものである。日本と中国、立ち位置は違っても我々は未来のために今出来ること全てに分別と勇気を持ち取り組むべきである。文化は「心の足し」文明は「腹の足し」と言うが、身近な文化・文明大国の日本と中国はその類い稀な長所に気付き大きく目を見開いてお互いを真摯に理解することが大切である。ヒトは過信ゆえに時折ミスも犯すが、私は神より地球の全てを託された人類はその復元対応能力の高さにより必ずや明るい未来を創造すると信じたい。栃木県日中友好協会もその一翼を謙虚に担いたいと願っている。

栃木県日中友好協会 新会報誌『知己』の発行について

青年部部長の酒巻です。協会員の再編成に伴い新体制を迎えた当協会は、これまで発行していた会報誌『朋友Pennyou』に代わり新たに『知己』を発行することとなりました。

新理事長あいさつ 栃木県日中友好協会理事長 瀧澤 正幸



理事長就任あいさつ

この度、白石前理事長の後を受けて理事長に就任しました、瀧澤正幸です。歴史ある栃木県日中友好協会理事長を拝命し、その重責に身が引き締まるとともに、今後、会員の皆様とさまざまな友好活動に取り組めることを大変うれしく思います。

生まれも育ちも宇都宮、昭和38年春に生を受けました。東京で大学を卒業後、栃木県に戻り地元銀行に17年勤務、現在は宇都宮で家業の不動産管理業を営んでいます。妻、息子二人の四人家族、趣味はゴルフですが昨年選勝を祝ってからドライバーが飛ばなくなったと悩むこの頃です。

さて、当協会の現状報告ですが、執行部の体制刷新に伴いさまざまな活動を予定しています。県内の大学生を中心とした青年部が新たに発足、中国人留学生との交流や中国語の学習会などの活動を行っています。また、若い感性を取り入れた当協会HPのリニューアルにより、会員の皆さま、一般の方々にも当協会の活動が一目でわかるようになりました。ぜひ一度当協会のサイトを訪れてみてください。また今年は栃木県と浙江省の友好交流提携30周年の年に当たり、その記念事業として県内の青年30名を「栃木県青年友好代表団」として浙江省に派遣し現地の大学生や対外友好協会等との交流を予定しています。一方、中国からも教育関係者や産業・経済関係団体の視察、交流を目的とした訪日の活発化も見込まれます。これらの活動に理事長として積極的に取り組んでいるところです。しかし一番重要なことは、一般の協会の皆さまがこれら協会活動に気軽に参加でき、意見を出し合い、活動を通して互いに交流を図れるような組織にすることが私に課せられた使命であると考えます。

もとより微力ではありますが、当協会の発展のため、さらに日中両国の相互理解、信頼関係増進のために一層の力を尽くして参る所存です。引き続き当協会の活動にお力添えいただきまますようお願い申し上げます。

『朋友Pennyou』発行から5年の月日が経過し、30周年を迎えた栃木県と浙江省の友好関係はもはや単なる「朋友」を超えた「知己」と呼べるものです。コロナ禍により離れてしまった協会員や、畳まざるを得なかった事業は数知れず。しかし、その中でも唯一変わらなかったものは日中相互の友好的な感情です。諸々の規制が緩和された現在、私たちは「知己」として日中の親交を深めるチャンスに大変恵まれております。日中友好のさらなる機運醸成を願い、当協会の軌跡を四半期に一度『知己』にて報告させていただきます。今後ともよろしくお願いたします。

青年部部長 酒巻 大雅



成田博熙さん

こんにちは。成田博熙と申します。現在浙江大学に留学しており、博士3年です。大学では考古学を専攻しています。浙江省に来て10年経ちます。

浙江省は、古代の歴史と文化、美しい自然、現代的な経済発展が調和した、多面的な魅力を持つ地域です。今回は僕がその魅力について紹介します。



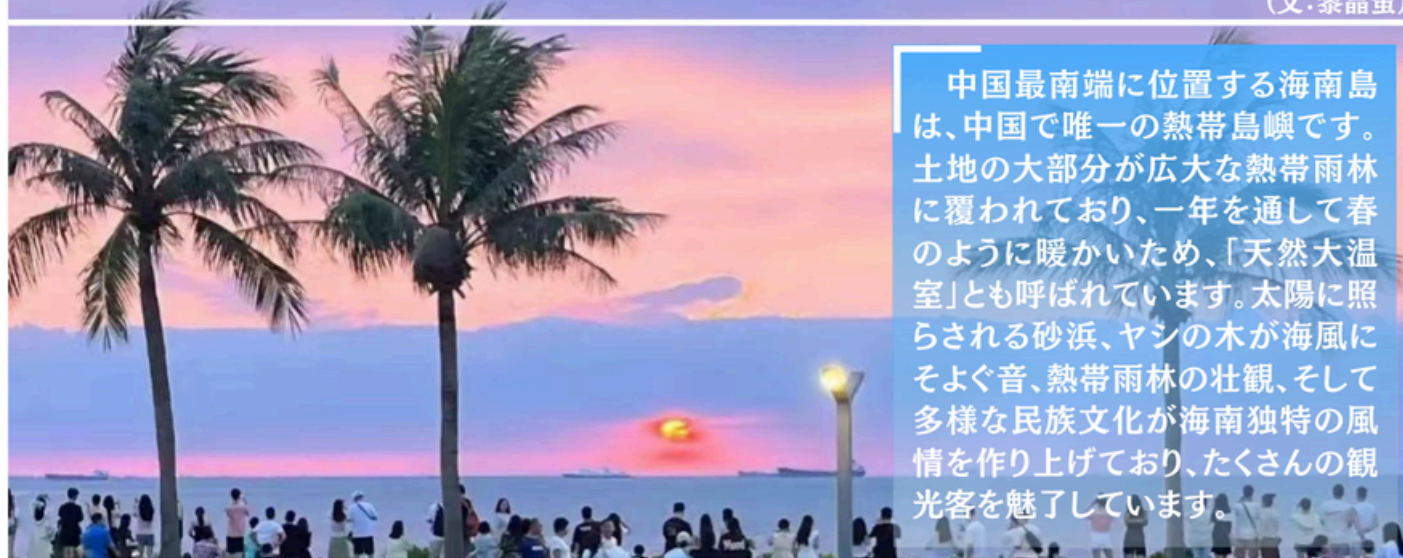
黎晶蚩さん

こんにちは！黎晶蚩（レイショウエイ）と申します。浙江省寧波市の大学で日本文学を専攻しています。将来中国で日本語教師になるため、宇都宮大学に留学しています。

栃木に留学ができて、本当に良かったです。美味しい餃子も食べられましたし、何より優しい先生や学生の人々と出会えたことが一番うれしかった！

黎さんが届ける、故郷海南の魅力

(文:黎晶蚩)



中国最南端に位置する海南島は、中国で唯一の熱帯島嶼です。土地の大部分が広大な熱帯雨林に覆われており、一年を通して春のように暖かいため、「天然大温室」とも呼ばれています。太陽に照らされる砂浜、ヤシの木が海風にそよぐ音、熱帯雨林の壮観、そして多様な民族文化が海南独特の風情を作り上げており、たくさんの観光客を魅了しています。

自然景観以外に、グルメも海南のチャームポイントです。新鮮な海の幸や海南四大名菜（文昌鶏、嘉積鴨、和菜蟹、東山羊）などは大変食欲をそそります。特に文昌鶏は肉質が新鮮で柔らかく、特製のタレをつけるとさらに美味しいです。この他、清補涼（薬膳スープ）やココナッツライスも海南風情に溢れる欠かせない一品！



海南は娯楽活動も盛んです。例えば三亚市では、ビーチでの日光浴、素潜りやサーフィンが大人気です。冒険好きの方は、熱帯雨林を歩くことで原始のパワーを体中に感じることができます。夜は賑わう夜市にくり出して小吃や工芸品を見て回るのが面白いですよ。

自然風景、グルメ、娯楽活動に非常に富んでいる海南は、来る人の心を掴んで離さない最高のレジャー天国です！



浙江の知己より

浙江に住む人、学ぶ人、働く人。
我らが知己たちは中国で様々な活躍しています。
彼らの語る中国を聞いて、現地に想いを馳せましょう。

浙江に来て10年、杭州を語る

(文:成田博熙)

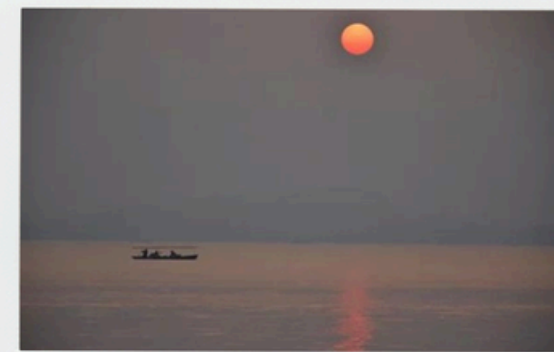


5000年の時を越える驚き—良渚遺跡

2019年にユネスコ世界遺産に登録されたばかりの良渚遺跡は、私の歴史観を大きく変えるものでした。新石器時代後期の良渚文化を代表するこの遺跡は、想像以上に広大で複雑でした。展示されているものの中で、神秘的な模様の「玉琮」と呼ばれる儀式用の器、先進性溢れる「宮殿区」の復元模型、現代の私たちが見ても感心するほどの規模と精密さを誇る水利システムなどは特に印象的でした。5000年以上前にこれほどの技術があったとは！

詩情豊かな絶景の宝庫—西湖

杭州の象徴である西湖は、まさに「地上の楽園」と呼ぶにふさわしいほどに美しい場所です。早朝に訪れた時の光景は忘れられません。朝霧に包まれた湖面に山々が映り、まるで水墨画の世界に迷い込んだかのように。遊覧船に乗って湖上から眺める景色は格別でした。特に印象的だったのは「西湖十景」と呼ばれる10の絶景スポット。その中でも雷峰夕照、断桥残雪、平湖秋月の景色は、季節や時間帯によって異なる表情を見せるので、何度訪れても飽きることがありません。



浙江省留学生写真コンクール入賞作品
題名「羞羞西子」

四季折々の花の楽園

杭州は「花の都」と呼ばれるほど、年間を通じて美しい花々を楽しむことができます。春（3-4月）は桜夏（6-8月）は蓮の花の季節。秋（9-10月）は金木犀、冬（2-3月）は梅の花。これらの花々は、単に見て楽しむだけでなく、杭州の文化や芸術にも深く影響を与えています。また杭州は丁度この時期は金木犀が満開で街中が金木犀の香りです。西湖の絶景、古代文明の神秘、四季折々の花々、そして美食...この地での経験は、私の人生を豊かにしてくれました。皆さんも、この魅惑の地へ行ってみませんか？時代を超えた杭州の魅力に、きっと心を奪われることでしょう。

